

当会賛助会員の北海道電力（株）（札幌市）が、
平成30年8月7日(火)付の、日刊工業新聞に紹介されました。

北電、LNG受け入れ

火力発電向け 来年2月 営業運転

【札幌】北海道電力は同社初の液化天然ガス（LNG）火力発電所の稼働に向け、北海道石狩市の石狩LNG基地でLNGの受け入れを始めた。13万7000キロワットのLNGを積んだLNG船が同基地に1日に到着（写真）。約10日間かけてLNGを基地内のタンクに送り込む。

10月に発電所の試運転を行い、2019年2月に営業運転を始める。



北電は、北海道小樽市に天然ガスで発電する「石狩湾新港発電所」（1―3号機、出力計170万8200キロワット）を建設する。19年2月に1号機（出力56万9400キロワット）が営業運転を始める。発電効率は62%と、一般のLNG火力発電所より約20%高効率だという。

LNGは今回、マレシアLNG社から調達した。基地のタンク容量の約半分に達する見込み。また北電はLNGのタンクへの受け入れを踏まえ、エア・ウォーター、岩谷産業と共同で、タンクローリーによりガスを販売する。18年度内には初出荷したい考え。